

令和5年度 第4回えびの市男女共同参画推進審議会の会議結果の概要

開催日時	令和5年12月25日（月）午前10時から午前11時50分まで		
開催場所	えびの市役所3階 第4委員会室		
出席委員	貴嶋俊介・佐藤以津子・立久井友文・田上みゆき・ 鶴田晃一・外山有美・福重真諭美・盛永ちづ子（敬称略）		
公開・非公開の別	公開	傍聴者数	0人
議題	1 令和4年度実施事業報告及び評価結果について 2 計画が目指す数値目標について 3 第4次えびの市男女共同参画基本計画策定について 4 その他		
会議の概要			
報告・説明事項			
1 令和4年度実施事業報告及び評価結果について・・・事務局より説明。 【審議会委員の意見】 ・委員・・・施策番号5番 事業番号6番「メディア・リテラシー講座の実施について」 男女共同参画の視点による子どもたちへの取組を長年に亘って継続的に実施していることはとても大切。ぜひ、引き続き続けていただきたい。 ・委員・・・施策番号7番 事業番号10番「人権教育推進事業について」 同和問題の模擬形式で授業をとということだが、このような具体的なことが書いてあると評価しやすい。 日向市でジェンダーについて、教員と行政職員の勉強会に参加した。ぜひ、毎年は厳しいかもしれないがテーマの一つとして、ぜひ採用してほしい。 ＜事務局・・・意見を提案したい。＞ ・委員・・・施策番号28番 事業番号82番「委員公募募集について」 女性委員の声かけもあって、女性の新規応募が4件あり、女性が増えたということが書いてあり、とても分かりやすい。男女共同参画の評価らしいコメントである。 全体的だが、総務課は男女共同参画の担当部署なのでいろんなことを実施し、このように女性を増やす取組をしたということは、すごく積極的で配慮して、工夫していると言える。 しかし、どんな風にしたのかよくわからないものも含め、全体的にAが多い。配慮することがまず大切だが、全部Aだとえびの市はバッチリということになる。現状は、正直まだまだで、それがえびのだけではなく、全国的に取り組まなければならない。そういうことから、評価検討してもよいと思う。 ＜事務局・・・施策番号28番 事業番号82番 それぞれ施策の評価としては挙がっているが、全体的な総括の評価みたいなものを冒頭につけて、その中で実績として特徴的なものや新たに生じた課題が分かれば入れるような形で評価をするのもいいと思った。何らかの表現をしたい。＞ ・委員・・・施策番号46番 事業番号129番「えびの市母子健康包括支援事業について」 どちらかというと配慮できた“B”だが“A”でいいのではないかと。 妊産婦にしかできないケアの部分は、妊産婦にしっかりしていただければいいと思う。身体と性の部分とジェンダーの部分この辺りを分けて考えられるといい。ぜひ、これからパパになる方の支援もしてもらいたいが、まずはママの支援をしっかりといただきたい。 コロナ禍の影響で母親同士の交流が減ったと感じる。コロナ禍のお母さんたちの孤独は、とてもきつかったと思う。若いお母さんたちは交流が苦手な人も多いので孤立しないように			

行政のサポートをしっかりともらいたい。

- ・委員・・・施策番号46番 事業番号131番「妊産婦等・乳幼児健康診査事業について」
配慮度が56.3%とあるが実際にえびのは、出産後検診もきちんとしている。来られない方へは、再度保健師さんが連絡して、家庭訪問したり、出産後1カ月以内は、母子推進員が必ず家庭訪問しているのに、なぜ配慮度が低いのか。
＜事務局・・・評価の段階で各項目に点数が入られないような状況で母子に特化した事業であるというところや男性への対応が実際問題としてなかったので評価がなかなか難しいと
のことで記入してある。
先ほどの委員からいただいた意見を参考に評価としては入れていきたい。
当初は、ここは評価できないという評価で担当課からきていたが、母親への対応で男性への育児参加へもつながるということで評価をしてもらおうようにお願いし、評価してもらった。意見を参考に担当課へも伝えていきたい。評価が“A”でいいのではという意見等も伝えて、今後の取組を推進していただきたいと考えている。＞
- ・委員・・・全体的にこんなことをしたという中に、男女共同参画の配慮ということが総務課以外は、あまり見えてこない。
評価について、見直しをされるということだが各課も「男女共同参画視点」での評価」難しいのだろうと感じる。全体を評価するのではなく、今年は、この事業の中で特に男女共同参画の視点でこのようなことを改善・取組しましたというようなことで毎年各課1つずつでも改善していくと良いと思う。
＜事務局・・・事業の実施の状況等が記載されていて、そこにどのような配慮や視点があったのかというところについての評価が記載されていない部分もある。次年度以降の評価の際は、そのようなところの記載を徹底したい。＞
- ・委員・・・市民として、実際、普通に生活していたら男女共同参画について、ほぼ考える機会となく過ごすことが多い。市のホームページを見るかと言われたら見ない。広報紙がきても見ないかもしれない。自治会に加入していなければ広報紙もこない。このようなことがあるので、われわれ子育て世代がどのような場でこのような機会に触れることがあまりない。
⇒PTA総会などの場所でセミナーを行うなど子育て世代に向けてもしっかりやっていくのが大事。
＜事務局・・・市民の方への広く周知あるいはその世代であったりライフステージに応じた形で、この男女共同参画というのに触れたりというところのご意見をいただいた。もしかしたら、無意識の男女の格差等への意識というのは、今の子育て世代の方は、私たちとはまた違ったそれが自然に身にしみついているところもあると思う。そのような部分も含めてライフステージに応じたあるいは学校とかそのような場での啓発についても考えていきたい。
意見があったPTA総会とか家庭教育学級の中でもいろいろしていただいているが、そのようなところでも啓発ができて、できるだけ多くの方がこのような機会に触れるような施策も考えていきたい。＞

2 計画が目指す数値目標について・・・事務局より説明。

【審議会委員の意見】

- ・委員・・・7番8番で目標設定値を人数ではなくパーセントにした方が良いのでは。認定農業者も農業者自体が減っている。それに対して人数だと戸数が減っているのに人数が合わなくなる。⇒パーセンテージが上がっているけど人数が減っていることもあるのでパーセントにした方が良い。
＜事務局・・・検討したい。他の部分でも例えば、講演会の参加者数という目標があるが、単なる参加者数というのではなく、先ほどの割合というところで男性の参加者の割合などの部分での変更を考えている。
また、審議会からの答申の中でも数値目標の見直しについて、意見をいただいた。その部分も反映させて形で第4次基本計画には載せたい。＞

3 第4次えびの市男女共同参画基本計画策定について・・・事務局より説明。

【審議会委員の意見】

＜事務局・・・第4次えびの市男女共同参画基本計画（案）を本日配布。

年明けに、パブリックコメントを実施⇒市民の意見のまとめ審議会委員の意見もこの期間に提出があれば、少し反映はできると考えている。

第4次基本計画（案）の構成としては、第3次基本計画とほぼ変更なし。

第1章、第2章が基本的な考え方と計画策定の背景が1ページから20ページ。第3次基本計画では6ページ。そのような意味で現在の状況等も踏まえてエビデンスを拾いながら作成しているのでボリューム的にも大きくなっている部分がある。

第3章で施策等を掲載。別表の計画が目指す数値目標については、今回は掲載していない。参考資料として、用語解説・関係する法令・これまでの流れなどを記載する予定。年明けのパブリックコメントをする際には、審議会委員へも示す。＞

4 その他

【審議会委員の意見】

- ・委員・・・第4次基本計画では、“えがおが交わり続けるまち”となっていて、キャッチフレーズがいろいろあるが、どこでどのように統一をされていくものか。

＜事務局・・・“えがおが交わり続けるまち”は、第6次えびの市総合計画の市の目指す将来像としてのイメージ。これを載せながら、“霧島山のめぐみめぐるえびの”は、市の対外的なPRに使うキャチコピーでその時は、この2つで考えている。他にも国際交流のまちえびの市であったり、様々なフレーズもある。

その時々総合計画のフレーズであったりする。そちらについては、市民の方もどれがえびの市のキャッチフレーズなのかという意見もいただく。今回、この“えがおが交わり続けるまち”と“霧島山のめぐみめぐるえびの”が男女共同参画の部分にも合っていると思って載せている。ご理解いただければと思う。＞

- ・委員・・・この第4次基本計画に議会事務局は、担当課には関係しないのか。

計画をする際に、それぞれ担当課がある中であえて入っていない課もあるが議会事務局もそのような課と同じ位置づけになるのか。

＜事務局・・・組織としては、厳密に言うと別である。市の執行部の案としての形には事務局には載っていない。ただ、議会の方として、これを進めていないというわけではない。議会でも、議員で構成する委員会ですいろいろな進められている。事務局にも相談して、記述として載せられたら載せるが、基本的には市の執行機関のチェックする機関ということで、市の方でこんなことがなっていないのではとかこうした方がいいのではという組織になっている。計画の中には、なかなか出てきていない。ここはまた、検討させてほしい。相談したい。＞

- ・委員・・・事務局が男女共同参画にどのように関わっているのか、つまり事務局としても当然、市議会の人たちに男女共同参画の啓発などをやっているのか知りたかった。

＜事務局・・・当然、啓発等については総務課がやったりすることを議員の方、議会にも広めていただいたりというところはある。その中で、今回担当課で示している中では、当然その課だけではなくて、全課が関わっている部分もある。ここについては、まだ入れていない段階である。主として、部署を載せているので全課に関係あるものは、今後全課と入れていきたいと考えている。その中で、議会事務局にも関わっていただきたいと思う。

計画策定のスケジュールがおおして、各課にも確認をしながらの作業になっていない状況で素案ができた段階で各課に示してと考えているのでその中で、調整していきたい。当然、重要な視点。

えびの市議会としては、男女比率というのは、他の市町村と比べて高い状況にある。そういったところでも取り組まれていることも多々あるので、事務局には、入れ込むところがないか検討させていただきたい。＞

＜事務局・・・メディア・リテラシー講座について紹介

第1回審議会で本年度の事業実施計画について説明したが、メディア・リテラシー講座を各中学校で実施。12月13日真幸中学校・12月14日上江中学校で実施した。年明けの

1月16日加久藤中学校・1月18日に飯野中学校で実施する。＞

＜事務局・・・メディア・リテラシー講座の各学校の実施については、現在10年以上続いている事業としてご意見いただいている。

アドバイザーのたもつ先生、高崎先生と話をする中で、次の段階というかメディア・リテラシーに限らず、ジェンダーの部分での学びというのを進んでいいのではというところの意見もいただいた。その中に、子どもたちだけではなく、先生や地域の方も入って一緒に考えるような機会ができればということもお話いただいた。そこは継続しながら新たな展開も考える段階にきていると思う。

今年度は、特にたいへんな年で、皆様にもお時間をいただくことが多々あった。皆様のご協力に感謝する。第4次基本計画の計画を着実に実施し、男女共同参画社会の実現をできれば男女共同参画という言葉を意識せずにそのようなことが自然にできるえびの市にしていきたいと市長も考えているので今後ともご理解とご協力をお願いしたい。